

薬草園の花だより

第14号

2018年(平成30年)10月31日発行

■第14号に寄せて

あんなに暑かった日々が嘘のように、このところは連日、涼しい日が続くようになりました。もう10月も終わりとなり、本日はハロウィーン。明日からは霜月となります。サフランの白い芽が力強く伸びてきました。まもなく今年もある気品のある色合いのサフランの花(見頃はごく短いです)を見ることが出来ることでしょう。楽しみです。

ハロウィーンの時期には、日本においてもあちこちで黄色いお化けカボチャなどを見かけるようになりました。薬用植物園の温室にてちょっとした飾り付けをしました。それにしても、人間ってお祭り好きだなあと思います。かく言う小生も大のお祭り好き。青森に住んでいた時期には「ねぶた」出陣(ねぶたは参加と言わずに出陣といいます)もしていました。しかしながら、「はねと」となって飛び跳ねては5分と持ちませんから、もっぱら、「ねぶた祭実行委員」のたすきをし、大学の名前の入った提灯を持ってねぶた出陣の先頭に立ち、祭りの中からねぶた祭りを堪能しました。ねぶた囃子は私の記憶にしっかりと刻まれ、私を鼓舞してくれています。一見、華やかとも思える祭りですが、勇ましい武者を象った正面に対して裏側は「送り絵」と呼ばれる静かな印象のデザイン(主に美人画)。一団が過ぎて送り絵を眺めると、なんとも言えぬ、東北の短い夏を惜しむ、しみじみとした良さもある祭りと思いました。日本のハロウィーンは今、単なる大騒ぎといったイメージがありますが、本来、祭りには自然の恵みへの祈りや感謝、自然への畏敬といったものが不可欠なもの。祭りは是非、心に残るものになってほしいものです。



カリンの果実がたくさん実りました
(日本薬科大学薬用植物園温室入り口にて)



ハロウィーンの時期です
(日本薬科大学薬用植物園温室入り口にて)

えぬ、東北の短い夏を惜しむ、しみじみとした良さもある祭り

と思いました。日本のハロウィーンは今、単なる大騒ぎといったイメージがありますが、本来、祭りには自然の恵みへの祈りや感謝、自然への畏敬といったものが不可欠なもの。祭りは是非、心に残るものになってほしいものです。

今は実りの秋、薬用植物園にても、柑橘類のウンシュウミカン、キンカン、ユズがたわわに実をつけています。イチジクは終わりましたが、カリンの実が黄色く色づきはじめました。やがて、小菊の類も花を付け始めることでしょう。植物を相手に過ごしていると季節の変化が身にしみて感じられます。四季のはっきりしている土地に生きてきた日本人は、海外の人々から、特に自然に敏感な国民と思われているようですが、このことは世界に誇るべき事だと思います。この自然への鋭い感受性が、世界に冠たる和食を生み、日本庭園や盆栽を生み、茶道や華道などの各種の道を生み、俳句を生んだのでしょうか。(船山)

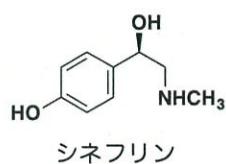
み、日本庭園や盆栽を生み、茶道や華道などの各種の道を生み、俳句を生んだのでしょうか。(船山)

■今咲いています・見頃です

《ウンシュウミカン》

温室の東棟の南側でウンシュウミカン(ミカン科)が実りました。家紋の橘(たちはな)紋の橘はミカンの類いの総称とか。この橘紋はミカンの花をかたどったものかと勘違いしていましたが、実はその葉と果実を組み合わせたデザインとか。

ウンシュウミカンの皮はいわばゴミですが、このものを乾燥させ刻んだものはチンピ(陳皮)という歴とした生薬となります。チンピには香りの成分のみならず、アルカロイド類のシネフリン(synephrine)等も含まれています。



ウンシュウミカン
(日本薬科大学薬用植物園温室東棟前)

《センブリ》

日本薬科大学さいたまキャンパス内の北側にはセンブリ(リンドウ科)の自生が見られます。ちょうど今、白い花を付けていますので、是非御覧になっていただきたいと思います(写真は薬用植物園の野本有香さん撮影によるもの)。

センブリはリンドウ科の植物で、いかにもこの仲間の植物らしく、とても端正・清楚な花を付けます。センブリの名は「千振り」から来ており、千回振り出してもまだ苦いから付けられました。一度、その小振りな葉の1枚を口に入れてみてください。いかに苦いか、充分に味わうことができます。センブリは我が国独特の生薬です。主成分はスウェルチアマリン。スウェスチアマリンはモノテルペン由来のセコイリドトイド骨格を有しています。



センブリ (YN)

■最近の他の植物写真から（5）

今回もキャンパス内あるいは周辺にて最近撮影した植物写真から、薬用か否かにかかわらず、いくつか選び出してみました。YNとあるのは薬用植物園の野本有香さん撮影によるものです。

薬用植物園の入り口にガーデンシクラメンを植えてみました。花の少なくなった今、ちょっと寂しくなったかなと思い。薬用植物園を訪れる方々を暖かく迎えようと、この時期に真っ赤な花をつける植物を選んで植えてみたのです。雪の中でも花を付け続けるくらい寒さに強い植物です。しばらくの間、楽しむことができるでしょう。

一方、園内では花期の長いツワブキやチェリーセージがまだ今を盛りと咲いています。アサガオは夏の花と思われがちですが、むしろやや涼しくなった秋口の方が元気に花をつけます。古くからわが国で栽培されているアサガオの方はさすがに終わりに近付いてきたものの、葉の形の異なるセイヨウアサガオの方は今が満開です。写真には示していませんが、近くではルコウソウも小輪の赤い花をたくさんつけています。また、この夏の暑さのためか本来は真夏にたくさんの花を咲かせるはずだったチョウセンアサガオ、草丈は伸びたもののこの夏の花付きはあまりよくありませんでした。この元気のなかったチョウセンアサガオが、涼しくなった今になってまた、きれいに咲かせ始めました。この花の花びらの先のとんがった部分は同属のケチョウセンアサガオにはないものですから、その違いをよく観察しておいたらいかがでしょうか。



ガーデンシクラメン
(YN)



ツワブキ (YN)



セイヨウアサガオ



チヨウセンアサガオ



チェリーセージ (YN)

■薬用植物園からのお知らせ

《御礼と御案内》

猛暑の中で実に旺盛だった植物の生育もこのところやや落ち着いてきました。この夏には多くの皆様に草取りの御協力をたまわりまして、まことにありがとうございました。とても助かりました。厚く御礼申し上げます。

本文に書きましたように、今、薬用植物園にては種々の柑橘類を始めとする実りの秋となっております。学生諸君には、これらの果実のついた状態を是非観察しておいていただきたく思います。また、薬用植物園内および周辺ではセンブリが満開となっております。センブリの自生はもはや貴重ですから、私たちは保護に努めるとともに近年は園内の圃場への播種なども続けてきて、今年はとくに多くの花が観察されます。こちらも是非御覧いただきたく存じます。

なお、現在、大量のユズの実が実っており、いすれ、このユズの実を使って、昨年同様にユズ茶をつくって皆さんと一緒に楽しもうと計画しています。その際にはまたご案内いたします。

引き続き薬用植物園への御関心を寄せていただけます様、よろしくお願い申し上げます。

発行：日本薬科大学薬用植物園管理運営委員会
委員長（薬用植物園長）／船山信次
副委員長／山路誠一
委員（教員）／野口博司・西川由浩
新井一郎・糸数七重
委員（事務）／今村隆・中野雄太・鈴鹿和子
土屋翔太郎・佐藤智恵・黒木重夫
オブザーバー／野本有香（薬用植物園）